

入学式 始業式

5月21日(木)13:00から入学式、新型コロナウイルス感染防止のため、新入生のみ、クラスを2つに分けて、私の入学許可、式辞、新入生代表挨拶はLANを活用しての動画配信となりました。

本科新入生代表の内村水軌君は「一つ目は、野球部でレギュラーとなり、甲子園に出場すること」「二つ目は高校では中学とは違った分野も学ぶこととなりますが、いろいろな検定受験にも挑戦していき、文武両道を目指す」と2つの目標を掲げ、さらに「沖縄水産高校の生徒として誇りを持ち、その伝統と歴史を築いてきた先輩方に恥じることのないよう、自立した高校生活を心掛けていきたいと思います」と力強く締めくくりました。

専攻科代表の平良龍元君は「私はここで国家資格である『三級海技士』をはじめとする上級免許の取得を目指します」と先輩らしい落ち着いた態度で未来を見据えた覚悟をにじませていました。

5月22日(金)は10:20から2年生、14:20から3年生の始業式でした。これも校内放送を活用し、感染予防を徹底した中での実施となりました。以下私の挨拶の抜粋を記載します。

～ 夏のインターハイや甲子園など、その他行事も中止となるなど、高校集大成となるこの年まで皆さんが今まで培ってきた力と技が発揮できる機会が大きく減ることになりました。このことに関しても頑張ってきた皆さんにかけける言葉も見つかりません。また私も言葉に言い表せないほどの悔しさと残念な気持ちで一杯です。略～ 自粛の間に学んだ「自分の身を守ること」「他の人の健康や気持ちを気遣うこと」を忘れず、そして、これからの高校生活については、一人ひとりが「進路をしっかりと見据えて高校生活を送る」こと。沖縄水産高校の生徒として、すばらしい校風を作ること。学校の伝統を自ら築き上げることを願っています。

ここでちょっと本と言葉の紹介をします。500年以上前にイギリス人のアイザックウォルトンという人が書いた「釣魚大全」という本があります。この本は世界の釣り人から釣りの聖書と賛えられる歴史的名著であり、また釣りの哲学書とも言われています。この中でウォルトンは魚がかかる前の釣り人の心構えとして「STUDY TO BE QUIET」直訳すると「静かになることを勉強しなさい」日本の文学者開高健氏は「穏やかたるを知れ」という言葉で記しています。この言葉の意味は、常に落ち着いて冷静に物事を判断する。そのためには的確に正しい情報を多くキャッチする。そして得た情報を基に行動を起こす。という意味でしょう。そのための準備を怠るなという意味だとも思っています。

先の見えない時代だからこそ、この言葉の意味が重く感じられます。今日からの学校生活では先生方の指導を静かに穏やかに今まで以上に守ること。自分本位の行動は慎むこと。誰も体験したことのない時代にお互いに思いやりをもって頑張っ生きていきましょう。皆さんの健康と頑張りを祈りながら挨拶とします。

穏やかたるを知れ されど悠々として急げ

おわり